



はじめに

みなさんは建皇子たけるのみこ（建王たけるおわう）を知っていますか？

生まれつき声が出せず、八歳でこの世をさった、飛鳥時代の皇子です。今からおおよそ一三〇〇年前に作られた、『日本書紀にほんしよき』という書物によれば、おばあさんの斉明天皇がたいへんかわいがり、自分のお墓に建皇子をいっしょに葬ってほしい、と言いつつ残したそうです。

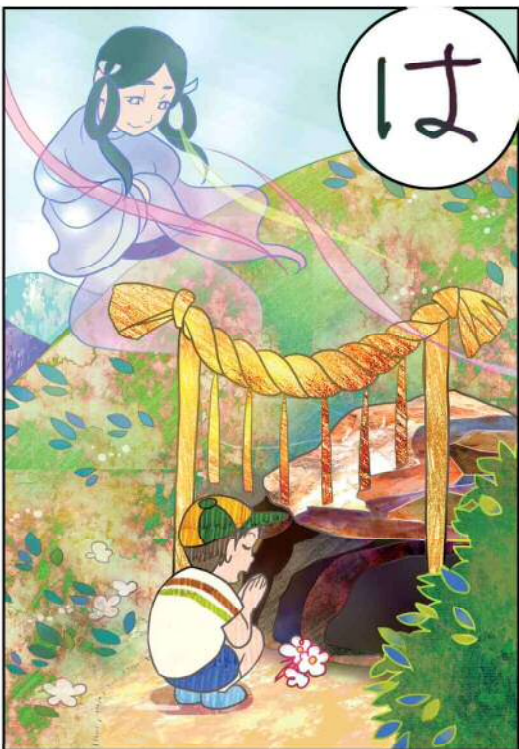
建皇子が正式に埋葬される前、「もがり」といって、最後のお別れをする場所がありました。『日本書紀』ではそこを、「今城いまきの谷の上」と記しています。いつの頃からか、大淀町の今木いまき（奈良県吉野郡）にある保久良古墳ほくらこふんが、「建皇子のもがり塚」と語られるようになりました。

保久良古墳は、七世紀ごろの横穴式石室をもつお墓ですが、発掘調査の結果、須恵器すえきとよばれる当時のやきものや、そらまめ大のこはく玉などがみつかり、そこに葬られた人物を考える手がかりが得られました。

そんな保久良古墳の詳しい情報や、建皇子の物語をつづったのがこのブックレットです。今木の里を歩いて学ぶみなさんの副読本として、使っていただければうれしく思います。

目次

- ・ はじめに…………… 1
- ・ 保久良古墳…………… 3
- ・ 建皇子の物語…………… 6
- ・ 今木の里めぐり…………… 9
- ・ 情報掲示板…………… 13
- ・ 関連地図…………… 14



墓に立ち 建皇子に 思い寄せ
『おおよどふるさとカルタ』より
(絵：三岡真亜矢)

※表紙：建皇子（絵：W.M） & 保久良古墳の春

※裏表紙：建皇子と斉明天皇と保久良古墳（絵：杉本幸子）



今木の里を南から望む（中央手前に保久良古墳／奥に金剛・葛城山）



今木の里を北から望む（中央手前に保久良古墳／奥に吉野連山）

保久良古墳

ほくらこぶん

保久良古墳は、大淀町の西の端、大字今木にある古代のお墓です（14ページの地図）。

そばをとる国道三〇九号線から、東側の丘をみあげると、大きなヨノミ（エノキ）の巨樹の木陰に、こんもりとまるい、土の高まりがみえるでしょう。これが古墳の丘「墳丘」です。その片隅の、しめ縄をはった鳥居の下に、ぽっかりと洞穴のような入口がひらいています。これが石室の入口です（表表紙の写真）。

石を積み上げた入口から、通路のようになっていいるせまい部分（羨道^{せんどう}）を、さらに奥に進むと、大人でも立てる広い部屋（玄室^{げんしつ}）があります。この玄室に、お墓の主は眠っていたのです。このような羨道と玄室からなる石室を、横穴式石室^{よこあなしきせきしつ}といいます。

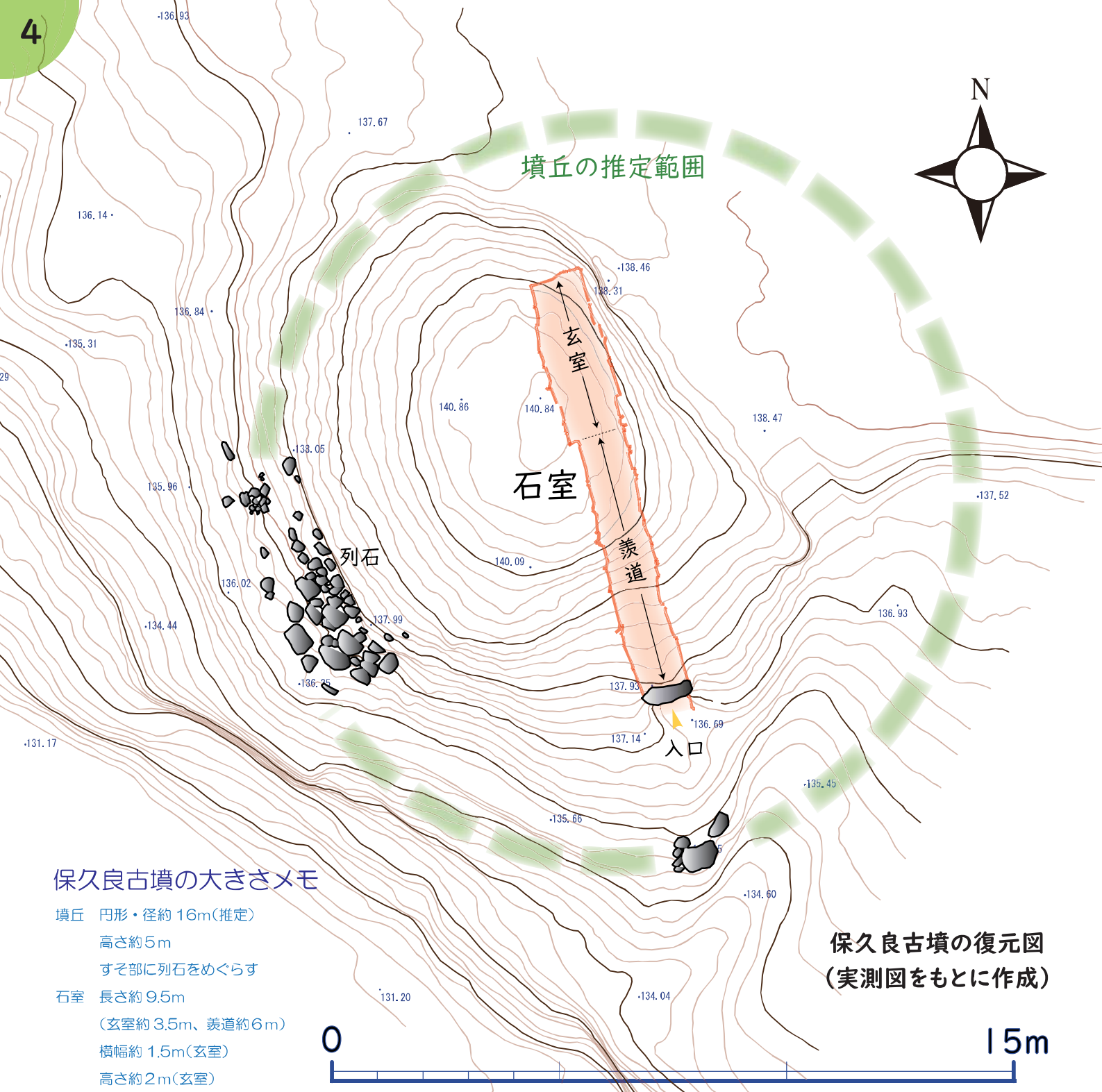
保久良古墳の石室は、入口から玄室の奥までの長さが、九・五メートルあります。玄室は、長さが約三・五メートル、横幅が一・五メートル、高さが約二メートルあります。

墳丘は、後世にずいぶん削られています。残っている部分から復元すると、もとは円い形だったとわかります。直径約十六メートル、高さ約五メートルで、石室の長さに対し、墳丘が小さい印象をうけます。これをもとに、次のページのような、空の上から見た図が描けます（石室は直接見えないので、透し図で描いています）。この図は、上が北の方位を示していますので、石室がだいたい、南の方を向いていることがわかります。

ところで、墳丘の西側のすそに、「列石」という文字がありますよね。ここからは、たくさん石が、積み上げられた状態でみつかっています。そういう目でみると、石室の入口の南側にも、積み上げた石が残っているでしょう。墳丘を造るとき、そのすそ部に、土留めの役割をはたす、「列石」をもうけていたのです。こうすることで、墳丘が崩れないように、工夫していたのですね。



保久良古墳のある丘陵
（右：西から 上：西上空から）



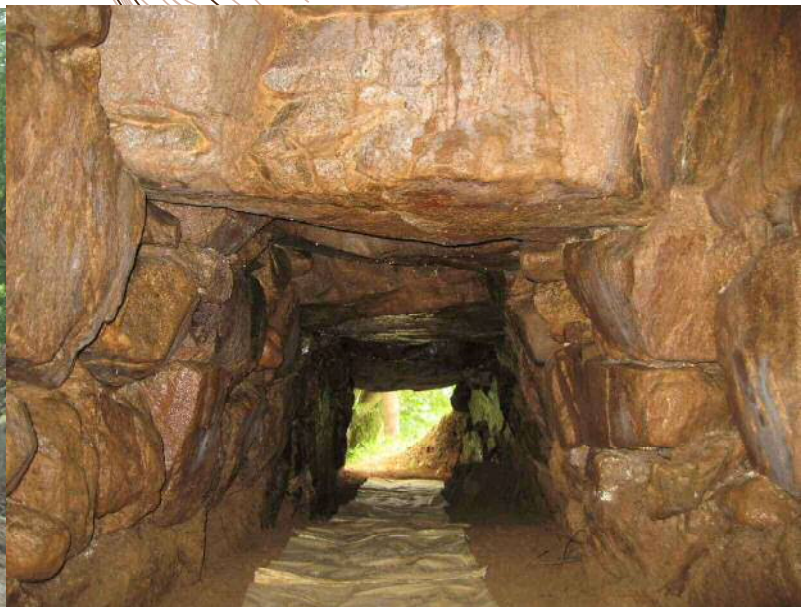
保久良古墳の大きさメモ

- 墳丘 円形・径約 16m(推定)
- 高さ約 5m
- すそ部に列石をめぐらす
- 石室 長さ約 9.5m
- (玄室約 3.5m、羨道約 6m)
- 横幅約 1.5m(玄室)
- 高さ約 2m(玄室)

保久良古墳の復元図
(実測図をもとに作成)



墳丘の列石 (西からみる)



保久良古墳の石室内 (奥から入口をみる)

【保久良古墳の主は…?】

保久良古墳は、墳丘と石室の特徴から、およそ一四〇〇年前、七世紀の前半代に造られた古墳といえそうです。でも、さらに詳しい年代を決めるため、石室のなかに埋まっているものを、調べることも必要です。

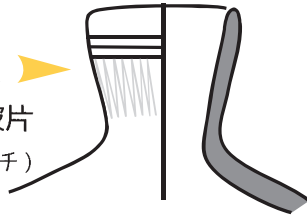
二〇一二年の六月、町の教育委員会がはじめて、この古墳の調査をしました。そのとき、石室のなかから、長さ二センチくらいの赤い「琥珀玉」がみつかりました。コハクは、天然の樹脂がかたまった化石で、奈良県やその周辺ではとれません。おそらく、コハクの名産地として知られる、岩手県の久慈という、奈良県から遠く離れた海沿いの地でとれたもの、と考えられます。色がきれいなので、古代からペンダントによく使われました。

そして、二〇一七年の一月に行われた調査では、石室のなかから、新しい発見がありました。それは、灰色で硬い須恵器と呼ばれる、古代のやきものでした。壺もしくは瓶と呼ばれる、うつわの口縁部で、外面には、櫛で描いたような文様もあります。七世紀のものでしょうか。

このコハクと須恵器だけで、古墳の年代を決めることは、まだできません。でも、葬られた主がつけていた、ペンダントの一部と、その主のそばに添えられた、やきもののかげらがみつかったことで、古墳の主はようやく、わたしたちの身近な存在になってきました。

長い間忘れられていた保久良古墳は、数回の調査をへて大淀町の史跡となり、多くの人々に支えられ、古墳公園として整備され始めました。これからも古墳を守り伝え、多くの人々が楽しみ憩う場にしてほしい。そんな古墳の主の声が、聞こえてきそうです。

イラストにすると
こんなかたちの破片
(口縁部の直径は8センチ)



こんなふう
にペンダントにしていたのかも…



石室からみつけた須恵器



石室からみつけたコハク玉

たけるのみこ ものがたり 建皇子の物語

建皇子は、中大兄皇子（のちの天智天皇・六二六年〜六七二年）と、越智娘（蘇我造娘）の子として、大化五年（六四九年）以降に生まれたようです。

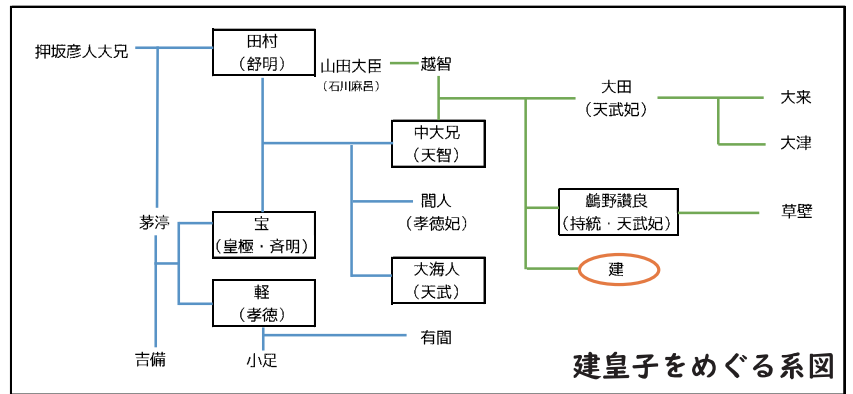
同じ年の三月二十五日には、中大兄の義父である蘇我倉山田石川麻呂が政変により自殺（殺害）。その次女・遠智娘も心に傷をおって病死しました。

この政変を指揮したのは、当時大きな力をもっていた中大兄です。建皇子は生まれてまもなく、父の政略で祖父と母を失ったのでした。

建皇子は、皇太子でもあった中大兄皇子の息子

として、将来的に天皇の位を継ぐ大切な立場にありました。姉（長女）の大田皇女と、次女の鸕野讚良皇女（のちの持統天皇・六四五年〜七〇二年）は、それぞれ六歳、五歳年上でしたがまだ幼く、おばあさんの斉明天皇（五九四年〜六六一年）が母親がわりだったと考えられます。

また、建皇子は生まれつき声が出せず、斉明天皇四年（六五八年）五月、八歳でこの世を去った、と伝えられています。建皇子を愛した斉明は、あふれ出る涙をこらえて、その悲しみを歌にし、みずからの墓に建皇子を合わせ葬むるように、と言いつ残しました。そして本埋葬に先立ち、「今城谷上」で、そのなきがらを前に「もがり」がおこなわれた、と伝えま



建皇子ゆかりの地



三年後、斉明天皇もこの世を去ります。その墓（陵）は「小市（越智）」に造られ、文武天皇三年（六九九年）にも「修造」がおこなわれています。現在、宮内庁が定める斉明天皇陵（高市郡高取町車木）の表札には「斉明天皇／孝徳天皇皇后・間人皇女 越智岡上陵／天智天皇皇子・建皇子墓」と、三人の名前が記されています。

最近の調査で、牽牛子塚古墳（明日香村越）が、斉明天皇の墓である可能性も高まっています。建皇子がそこへ合葬されたのかどうかは、はっきりしません。

また、酒船石遺跡（明日香村岡）付近が建皇子の「もがりの場」ではないか、とする意見もあり、建皇子のお墓をめぐる論争が今も続いています。

【おばあさんのこころ】

『日本書紀』には、斉明天皇が建皇子のことを偲んでつくった挽歌（死を悲しみ悼む歌）が六首、伝えられています。そのうちの一つが次の歌です。

今城なる小丘が上に雲だにも 著くし立たば何か嘆かむ

（日本書紀歌謡二一六）

（意訳）

建皇子が眠る、イマキの小さな丘。その丘のうえに、雲がわき立つように現れていたら、あの子のことを思い出して、嘆かずにはいられない。

その後、吉野郡今木村の丘の上にある「つかやま（保久良塚）」が、幼くしてこの世を去った建皇子の「もがり塚」だという説が、江戸時代の書物『大和志』に記されるようになりました（もがり塚とは、亡くなった人が正式に葬られるまでの間、仮に設けられた墓です）。保久良古墳のある丘は、それ以来、建皇子のゆかりの地として世に知られています。

保久良古墳がほんとうに建皇子の「もがり塚」なのかは、きっちりと証明されているわけではありません。でも、その言い伝えを信じ、建皇子の物語を語り継いできた人たちの思いが、保久良古墳に宿っていることも忘れてはいけません。

斉明天皇の歌碑

（大淀町・泉徳寺境内仁王門前）



【建皇子を題材にした作品たち】

ひがりと
 もに
 風とともに
 水とともに
 大地とともに
 に
 すべての
 いのちが
 ありのま
 まに
 ゆたかに生
 きられます
 ように

朗読劇『かぜの子 たけちゃん』より（字：和田江美子）



作品『たけるのにじ』より（絵：四葉るり子）



作品『皇子の琥珀』より（絵：守野聡子）



作品『紙芝居 たけるのみこ』より（絵：岡本佳千予）



作品『たけるのみこ』より（絵：岩崎庄隆）



いまき 今木の里めぐり さと

奈良時代に編集された『にほんしよき日本書紀』や『まんようしゅう万葉集』には、大淀町付近の地名や風景が登場します。大淀町大字今木も、吉野を代表する記紀・万葉ゆかりの地の一つです。

大淀町内で唯一の、こんごうりきしぞう金剛力士像がにらみをきかせている、泉徳寺境内の仁王門前には、ゆかりの万葉歌碑や斉明天皇の歌碑（7ページ）が建てられています。

また、そがのいるか蘇我入鹿をまつるかぶと甲神社、えんのぎょうじや役行者の伝承や室町時代に遡る石仏群、古風な民俗を伝える「牛と馬のトンド」など、個性ゆたかな歴史・文化遺産の宝庫、今木の里めぐり。四季折々に、ぜひ訪れてみて下さい。



権現堂内の役行者像



泉徳寺境内の男女神



甲神社

【ジヲウ古墳（坂合黒彦皇子墓）】

さかあいのくろひこのみこのはか

『日本書紀』によると、坂合黒彦皇子は大泊瀬皇子（のちの雄略天皇）の兄にあたる人物で、甥の眉輪王や、葛城の円大臣といっしょに「新漢槻本南丘」へ葬られたと伝えられます。その墓が江戸時代の終わり頃、大淀町今木の現在地（小字ジヲウ）に比定されました。

南にひらけた丘陵の先端にある、直径径約十五呎の古墳で、国道から見える石の鳥居が目印です。

【甲神社】

かぶとじんじや

巨樹の杜を背にして建つ、今木の里の氏神・甲神社は、江戸時代の史料に「甲之明神宮」として登場します。

社伝によると、飛鳥時代の六四五年、天皇をこえる権力をもってしまったため、中大兄皇子（のちの天智天皇）によって滅ぼされた蘇我入鹿の甲がまつられている、と言います。

十月の秋祭りには、地元の子どもたちによる巫女舞や和太鼓の奉納もされています。

古代史の伝承と

古風な民俗行事

【牛と馬のトンド】

今木の中野家に代々伝わる、福迎えの行事です。大みそかの夕方、新米のワラを使った牛や馬のツクリモノを、高さ二呎ほどのワラ束にひっかけて、川沿いの田んぼでいっしょに焚き上げ、ゆく年への感謝と、くる年の平穩無事を祈ります。古風な伝統を今に伝える貴重な行事で、「二〇一六年度おおよど遺産」にも選定されています。



トンドのようす

【今木寺の遺産】

江戸時代の書物『大和志』の仏刹の項には、「今木寺今木村：今金福泉徳二寺あり。ともに子院となす。」とあります。

泉徳寺と今木権現堂は、失われた今木寺の名残りで、修験道の開祖・役行者ゆかりの地です。仁王門には、明暦貳年（一六五六年）、商都大坂の中心地・今橋（現在の大阪府中央区）に住んでいた仏師が作った、阿形・吽形の金剛力士像があり、権現堂の内外には、すぐれた造形の石仏群があります（いずれも大淀町指定文化財）。

権現堂は、奈良県でもめずらしい石造りの蔵王権現像が本尊で、その両脇に、前鬼・後鬼を従えた役行者像と、交叉する龍王像が安置されています。

これらの堂内の石仏群は、永禄十一年（一五六八年）から十二年（一五六九年）にかけて作られたもので、奈良県から遠くはなれた「備中国」（今の岡山県）、「伯耆大山」（鳥取県）、「出雲大社」（鳥根県）といった文字が刻まれています。



仁王門の天狗像



参道と仁王門

南無日天子

攝州四天王寺

上宮聖徳太子之

大佛師

国見大部郷藤原重光作

申七月十五日

明暦貳年（一六五六）

大坂今橋道り尼崎町住ス



阿形像内部の墨書

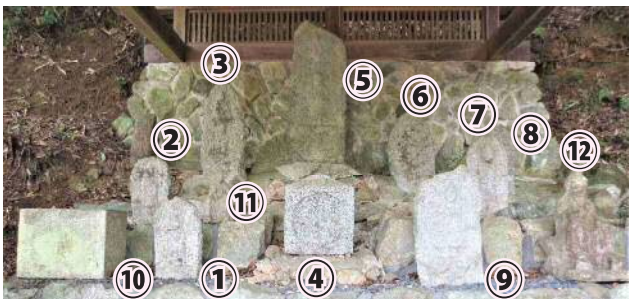


仁王門の金剛力士・阿形像

【今木権現堂内外石仏群（大淀町指定文化財）の一覧表】

No.	指定	名称	場所	大きさ (cm)	形質	銘文	その他
1	○	如来あるいは観音	権現堂脇	27.5×7.5×48	自然舟型 花崗閃緑岩		
2	○	如来あるいは観音	権現堂脇	27.5×6.5×57	自然舟型 花崗閃緑岩		
3	○	阿弥陀如来（上段） 十一面観音（下段）	権現堂脇	35.5×12.5×84	自然舟型 花崗閃緑岩		
4	○	大日如来（右側） 男神（左側）	権現堂脇	42×39.7×84	方形家型 花崗閃緑岩 (葛城山付近の石)	「永禄十二年」（右横）「乙巳三月十四日」（左横）、「伯耆大山」「出雲大社」（裏）	永禄12年 (1569)
5	○	天女（上段） 不動明王（中段） 金剛界大日如来（下段）	権現堂脇	51×22.5×124.5	自然舟型 花崗閃緑岩		
6	○	剣にからまる龍 (不動明王の化身)	権現堂脇	37.5×23×68.5	自然舟型 花崗閃緑岩		
7	○	蓮のつばみを抱える観音	権現堂脇	29.5×12×58.5	舟型		
8	○	板碑（一石五輪）	権現堂脇	29.5×15.5×56.5	舟型	梵字あり	
9	○	龍にのる男神	権現堂脇	37.5×16.5×78.5	自然舟型 花崗閃緑岩	「三界萬霊」（右上）、「三千世界代々末世有不滅」（龍の上、神像右側）	金福寺伝来
10	○	石塔台座	権現堂脇	48.5×27.5×37.5	方形 花崗閃緑岩	「播磨村念仏講中」「大坂講元先立福壽院田中五良兵衛」「御本山」「菊本福寿組南大峯山上 願主 鳶之内之棉町住 淡路屋庄兵衛之立」（台座）ほか	江戸時代 台座の半分
11	○	役行者像	権現堂脇	19.5×12×39	和泉砂岩		江戸時代以降
12	○	役行者像	権現堂脇	38×33×67	和泉砂岩		金福寺伝来 江戸時代以降
13	○	後鬼像	権現堂内	31.5×17.5×63	花崗閃緑岩 (金剛山付近の石)	「妙祐劍靈妙西」「妙金妙正妙金」（裏）	室町時代 水瓶をもつ
14	○	役行者像	権現堂内	42×36×108	花崗閃緑岩 (金剛山付近の石)	「永禄十一年三月日」（足元）、「十四之」「月日」（膝上胴部）、「ハウキ大山」「九百九十九人行」「龍宮求姫」「熱田大明神」「吉野二王」「備中国境目中東」「定久女人本願」「ケン五郎」「浄永法印」ほか（裏）	永禄11年 (1568)
15	○	前鬼像	権現堂内	27×21×62	花崗閃緑岩 (金剛山付近の石)	「ヲツル妙正妙金」（右側）	室町時代 斧をもつ
16	○	蔵王権現	権現堂内	58.5×32.5×132.5	花崗閃緑岩 (金剛山付近の石)	「ケン五郎」「備中国境目東 定久女人本願」「永禄十二年乙巳三月十一日」（右側下）、「人名等あり（裏下）」	金福寺伝来 永禄12年 (1569)
17	○	交叉する龍王 馬頭観音（上右） 阿弥陀如来（上左）	権現堂内	42×19×124	自然舟型 花崗閃緑岩 (金剛山付近の石)	「八大荒神」「六荒神」「ケン五郎」「浄永法印」と12の菩薩名（裏）、「永禄十二年三月十一日」「備中国境目東」「不佛面」「不神面」「定久女人本願」（正面下）ほか	永禄12年 (1569)
18		男神（上段2・下段2）	泉徳寺境内 山門脇	50.5×13×106	自然舟型 花崗閃緑岩	「代限无不華盡」「御子十八人」	
19		地藏（上段2・下段2）	権現堂上	35×16×73	自然舟型 花崗閃緑岩		金福寺伝来

※18・19は境内にありますが、指定文化財ではありません。 ※※石材の鑑定は、奥田尚氏（奈良県立橿原考古学研究所特別指導研究員）によります。



権現堂外石仏群（番号は一覧表に対応しています）



権現堂内石仏群（番号は一覧表に対応しています）

権現堂内の蔵王権現像



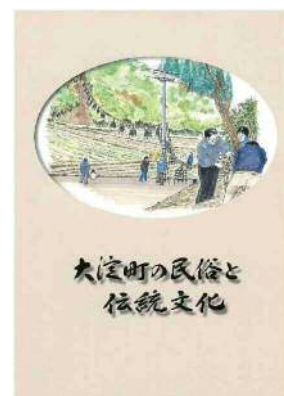


今木の里・情報掲示板

連絡先	所在地	TEL	備考
甲神社	大淀町今木367	0745-67-1718	参拝自由
泉徳寺(今木権現堂)	大淀町今木1394	0745-67-1731	堂内拝観の際は事前に連絡
今木簡易郵便局	大淀町今木303-4	0745-67-1700	土日休
今木駐在所	大淀町今木243-1	0745-67-0109	土日休
薬水コミュニティセンター	大淀町薬水340-1		連絡は薬水区長まで
大淀町公民館大岩分館	大淀町大岩589		連絡は大岩自治会まで
おおよどパークゴルフ場	大淀町大岩409-10	0745-67-0543	火曜休
☆情報を入手する			
道の駅・吉野路大淀iセンター	大淀町芦原536-1	0747-54-5361	火曜休
大淀町役場まちづくり推進課 (観光情報について)	大淀町桧垣本2090	0747-52-5501	土日休
おおよど語り部の会 (観光ガイドについて)	大淀町桧垣本2090 (大淀町文化会館内)	0747-54-2110	火曜休
大淀町教育委員会文化振興課 (歴史・文化遺産について)	大淀町桧垣本2090 (大淀町文化会館内)	0747-54-2110	火曜休
☆インターネットで調べる			
道の駅・吉野路大淀iセンター	http://yoshinoji-oyodo.com		
大淀町役場ホームページ	http://www.town.oyodo.lg.jp		
大淀町公式動画チャンネル	YouTube「大淀町公式動画チャンネル」(町内各地の文化遺産を動画で紹介)		

参考文献【今木の里を紹介した本など】

- 大淀町史編集委員会編『大淀町史』(1973年)
- 大淀町教育委員会編
 - 『大淀町文化財図録』(2005年)
 - 『大淀町の民俗と伝統文化』(2011年)
 - 『おおよどの地域文化財を学ぶ』(2013年)
 - 『大淀町文化財調査報告書 第6・7集』(2011年・2015年)
 - 『大淀町地域遺産シンポジウム資料集』(2016年・2017年)
 - 『おおよど遺産パンフレット』(2016年・2017年)
 - 『DVD 大淀町の歴史・文化遺産』(2017年)
- 杉藤良成『古代の今来と現在の今木』(1983年)



※大淀町立図書館などで閲覧できます。他にも探したい本などがありましたら町教育委員会文化振興課(上記)までお気軽にお問い合わせください。

今木の里・保久良古墳へのアクセス

鉄道で… 近鉄吉野線・吉野口駅もしくは薬水駅・福神駅下車

自動車で… 御所方面から ▶ 京奈和自動車道・御所南IC～国道309号線で吉野方面へ
 橿原・吉野方面から ▶ 国道169号線～桧垣本交差点で御所方面へ
 五條方面から ▶ 国道370号線～国道309号線で御所方面へ



関連マップ



今木のもがり塚一ほくら古墳へ行こう

おおよどの魅力再発見
ブックレット①

発行年月日 平成30年3月31日
編集・発行 大淀町教育委員会文化振興課
〒638-0812 奈良県吉野郡大淀町検垣本 2090
TEL : 0747-54-2110 FAX : 0747-54-2112

